

令和2年度 第2回安中市 DMO 推進委員会 開催結果報告

報告日：令和2年12月24日（火）

標記委員会を開催しましたため、その結果を報告いたします。

実施日：令和2年12月18日（金）
出席者：別紙出席者一覧のとおり
<p>〈内 容〉</p> <p>1、開会 （司会進行：観光課 吉田観光係長）</p> <p>2、挨拶</p> <p>（1）副市長挨拶[要旨]</p> <p>皆様の御協力のもと、一般社団法人 安中市観光機構は、この5年間、当市の観光地域づくりのかじ取り役として、国の地方創生推進交付金を活用した DMO 事業を推進してきた。今年度は、その集大成として、5年間の積み重ねてきた成果に裏付けられた DMO の推進力を存分に発揮できる事業最終年度となっており、これまでの取り組みについて振り返り、今後につなげていくための「活発な意見交換」が非常に重要となる年であると考えている。また、現在は、新型コロナウイルス感染症の影響により、国内旅行も制限されるなど、観光産業は大変厳しい状況になっている。</p> <p>このような状況の中、安中市観光機構が、DMO として広域的に地域を巻き込み、一体となって観光振興に取り組むことは重要であり、「安中市」の発展に大きく貢献していくものと考えられ、地域を活性化させる原動力となっていくものになると大変期待している。ぜひ皆様方には、現状の取り組みの評価はもちろん、今後の「DMO 推進」に必要な取り組みや考え方などについても、忌憚のない御意見を頂戴できればと思っている。</p>

(2) 顧問挨拶[要旨]

今年度が今まで取り組んできた5年間の集大成となる。私自身は、今年度をもって顧問を失礼する。今後、安中市をお手伝いしない前提で考えていく。

DMO設立に際して、5年前に市の観光振興プランを作成した。その中で、「オール安中」の取り組みを目指して、様々なプランを作成して、安中市の機運を高めてきた。どこのDMOも収益部門、売り上げ関係について、現在実績が出ていなくて困っている。これは、「本気」でないから。本気で売ろうとしていないから売れない。その中で安中市はそれなりの実績を上げてきた。事務局はもちろん、委員の皆様の力添えもあった結果。コロナ禍でどこの市町村行政でも、観光協会の予算がゼロ査定となり、どこも悲鳴を上げている。

今まで取り組んできた5年間で振り返って、やってきたこと、やり残したことを今、振りかえったほうがよい。

3、議題

(1) 令和2年度地方創生推進交付金事業のKPI達成状況の中間報告

委員会資料を基に、以下のとおり各項目の説明を行った。

○総務省に提出しているKPIの達成状況の報告[3ページ]

【安中市観光課 大竹課長から説明】

(特記事項)

- ・昨年、観光客数のKPIについて、目標が高くて下方修正をした。
- ・コロナの状況下で、観光客数は、目標に達成できなかった。
- ・DMO会員数については、グルメチケットを通して、各飲食店回りを行って増やしている。
- ・雇用者数は、目標を達成している。

○観光庁に提出しているKPIの達成状況の報告[4ページ]

【安中市観光機構 依田氏から説明】

(特記事項)

- ・宿泊者数は、27万人を予定していたが、今年9月30日時点では7万6千人だった。これは、コロナの影響が大きく表れている。群馬県で実施した宿泊補助事業「愛郷ぐんまプロジェクト」や安中市の宿泊補助キャンペーンなど、宿泊に関する支援を行っていたが、現状はこの数字になっている。
- ・旅行消費額は、来年1月実施予定のアンケートにて算出するため現状空欄。
- ・ボランティアガイド人数は現在62名。主に廃線ウォークのガイドを募集していきたいが、コロナ禍にあり、積極的には動いていけない状況。

- ・メディア掲載回数は、新聞やテレビなどに取り上げられた数。コロナでイベントがなくなり、掲出機会が減って厳しい状況にあったが、マスクなどの取り組みで現状として38件が取り上げられた。

○今年度の観光客数の推移の状況の報告[5ページ]

【安中市観光機構 依田氏から説明】

(特記事項)

- ・4・5月の緊急事態宣言の影響で観光客数は伸びを欠いた。その後、県の宿泊補助事業「愛郷ぐんまプロジェクト」が開始して伸びてきた。

(2) 交付金を活用した令和2年度事業の進捗状況の報告

○令和2年度交付金予算内訳と交付金返還に関する報告[6ページ]

【安中市観光機構 依田氏から説明】

(特記事項)

[6ページ]

- ・コロナの影響で実施できない事業や一部事業費が安くなったものがあり、交付金を返還する予定。該当事業は、次のとおり。

◇モニターツアー開催事業

旅行会社の旅行商品造成担当者(エージェント)を招聘して、当市の観光コンテンツを紹介、体験してもらって、当市に関するツアーの造成を訴求する事業であるが、コロナの影響下でエージェントが招聘できずに実施困難との判断になった。

◇体験プログラム冊子「あんとりっぶ」制作事業

あんとりっぶ夏号について、8月に発行する予定であったが、内容検討などを行う作成時期が5月中旬と緊急事態宣言中であったこともあり、誘客促進の事業を行うことができない状況であったため、発行を中止した。

◇効果測定事業

ビッグデータを取り扱うために契約する「NTTドコモ」から値引きが20万円あった。このため、差額分を返金する。

○令和2年度 交付金を活用して行う実施事業の報告[7ページ]

委員会資料と交付金事業予算振り分け表を基に安中市観光機構依田氏から説明を行った。[7～16ページ]

(特記事項)

①商品開発事業[7～8ページ]

- ・駅弁をテーマにした扱う漫画家のはやせ淳氏が書き下ろしする峠の釜めしのオ

リジナル掛け紙を作成する。これまで秋用のデザインであったが、通年使えるデザインを新規作成した。

- ・安中市観光機構が実施する「廃線ウォーク」の熱心なファンと協力して始発ちゃんのイラストを活用した商品開発を進めた。
- ・これらの商品開発はコロナによる影響を受けないため、予定通り実施した。

②カタログ製作事業[9ページ]

- ・今年が交付金を活用して事業を実施できる最終年度ということで、今後のことを考えて、紙媒体からデジタルへの移行を行うために、物産品カタログのデジタル化を実施した。これは、現在の物販の注文が、「ネット注文」中心であることも移行に至る要因。このことにより、WEB上で「商品を見る」→「購入する」という流れが完結する。
- ・しかし、現在は、物販自体はWEB上でできるようになっているが、他社サービスを使っており、手数料がかなり取られてしまっている。このため、今後交付金事業が終わっても自前で継続して物販ができるように、物販機能を「あんとりっぷWEB内」に入れ込んだ。現状、商品整理などを進めており、来年から実際に販売できるようになる。

③モニターツアー開催事業[10ページ]

- ・先に説明した通り、コロナの影響で実施が困難のため、交付金を返還する。

④体験プログラム冊子「あんとりっぷ」制作事業[11～12ページ]

- ・現在は、秋号が発行となっている。冬号は来年1月に発行予定。
- ・秋号の内容としては、タレント、芸人に廃線ウォークを体験していただいて、その様子を冊子に掲載した。タレント等起用の狙いは、あんとりっぷの体験プログラムは県外の参加者が中心であり、インフルエンサーによるSNSでの情報発信により、より多くの参加者の獲得を狙ったためである。冊子発行の際にSNS投稿をしてもらい、約4000人の方にリーチした。
- ・今後、デジタル化に移行することにより、紙で行っていた毎戸配布の代わりに、市と協力して、広報あんなか等に掲載して市民向けのPRを行う。

⑤あんとりっぷポスター印刷事業[13ページ]

- ・カレンダーとポスターを両方作成する。コロナの影響と関係がないために、予定通り実施する。

⑥WEB保守管理事業[14ページ]

- ・あんとりっぷ WEB の管理を年間 15 万円分の補助金で賄っている。
- ・今年度の新たな取り組みは、「あんとりっぷ (冊子)」や安中市製作のパンフレットをデジタル化して WEB 上に掲載したこと。「あんとりっぷ」は、これまで発行してきた全ての冊子が WEB 上で見られるようになっている。市民向けという意味もあるが、ネットへの掲載により、より多くの人々が閲覧することができ、旅行会社への PR という意味も含んでデジタル化を推進している。

⑦トンネル調査事業[15 ページ]

- ・廃線ウォークは旧信越本線新線を使って実施しているが、秋はトップシーズンで非常に参加が多い。このため、安全性について調査するために廃線ウォークで使用するトンネルについて点検を実施した。この結果、1・2号は小さいひび割れがあり、3号は今後落下する恐れもあるということで危険性が高いという結果が出た。現在は、安中市との合意の上で、この部分は通らないこととして、運用している。

⑧効果測定事業[16 ページ]

- ・清水顧問からビッグデータの活用が DMO として重要との話があり、ドコモのインサイトマーケティングを導入している。これは、ドコモの基地局電波を使って、携帯電話所持者の動きから安中市への来訪者を算出している。
- ・廃線ウォーク (横川)、秋間梅林 (秋間)、磯部温泉 (磯部)、新島襄旧宅他 (安中) の4つのエリアで来年1月に対面アンケートを実施する。
- ・満足度、リピーター率などの対面アンケートでしか取れない数値と、ビッグデータや市が調査する「観光客数」といった数値を掛け合わせて、活用していく。
- ・安中市観光機構はビッグデータを活用しているが、他にビッグデータを活用して、観光客数を報告する市町村はまだ例がない。このために、コロナがなければ、観光庁が安中市観光機構のビッグデータの活用の様子を見に来る予定だった。結果として訪問は実現しなかったが、安中市観光機構が観光庁の推進する取り組みにきちんと沿っていると言える。

(3) 交付金事業5年間における各体験プログラム実績の報告

○安中市観光機構依田氏より、安中市観光機構にて作成した体験プログラムについて説明を行った。

- ・令和2年度の実績はコロナの影響があり、あまり宛にならないかもしれない。
- ・(平成30年度～令和2年度にかけて) 廃線ウォークを含んで600万円ほどがあんとりっぷ体験プログラムの実績となっている。売り上げは、バスツアーが多ければ多いほど、その分大きくなっている。

- ・売り上げにおいて「廃線ウォーク」が占める割合は大きい。廃線ウォークの次は、恵みの湯の「砂塩風呂」や「磯部せんべいさくさくウォーク」などの売り上げが大きい。
- ・体験プログラムは、様々なエリア区分で作成、PRを行っている。なかには、2市1町で連携したプログラムもある。

4、質疑応答

(1) 安中市観光ボランティアガイドの会 吉村会長様からの御意見、御質問

- ・昨年は上毛新聞社と一緒に実施した「中山道ウォーキング」について安中四宿めぐりを行って満員になった。今年も松井田城址を巡るコースを実施して大変好評だった。これは、上毛新聞社の力が大きいと思う。上毛新聞以外の様々な媒体を使ったほうが（連携したほうが）いいのではないか。
- ・渋沢栄一氏に関する大河ドラマ「青天を衝け」の関係で、昨日、渋沢栄一氏ゆかりの地として深谷市に行ってきた。安中市は、中山道の関係で埼玉の方のお客様が非常に多い。高崎、安中市に次いで本庄、深谷なども多い。このため、さいたま県との連携、深谷市と安中市のつながりを深めていくのがよいと考える。
- ・安中市観光機構の体験プログラムについて、プラン数が多すぎるのではないか。景気悪い時には、どこの企業も選択と集中を行って、絞っていくものである。廃線ウォークの他、もう一つとっておきのプランを柱にするように絞って、それに集中するといった対応をすることが景気の悪い現状に適しているのではないか。

【安中市観光機構 依田氏回答】

- ・体験プログラムに関する御指摘について、選択と集中が大切なのはその通りと考える。体験プログラムのプラン数は、事業開始当初、まずは「本数を増やす」ことを目的に始まった。プログラム数に関する KPI もこのために設定したものである。現在は、軸となるものを作ることが必要と理解している。
- ・現状行っている「廃線ウォーク」も価値を高めるためのブラッシュアップを図っている。会議前に放映していた廃線ウォークの動画映像も映像会社に募集を掛けていくなど
- ・機構が主催している（自社開催している）プランは廃線ウォーク一本、あとは、他の企業が実施しているものを安中市観光機構とコラボすることで商品化をしている。今後、自社で実施していくものを充実させることが大事であると考えている。

(2) 安中市区長会 萩原会長様からの御意見、御質問

- ・3 ページの KPI の表の「観光客数」について見ると、増加目標が徐々に減ってい

るように見える。令和元年度にようやく 2 万人になりました、令和元年度に観光客数の実績が 1 2 0 万人となっている。これは本当か？

私の考えるところでは、秋間梅林に年間 50～60 万人と観光客が入る。鉄道文化むらは 1 8～2 0 万人。市内宿泊施設における宿泊人数も各宿から集計を取っている。ほかに観光イベントへの来場者も集計できる。それを足しあげると、実績としておかしい（少ない）のではないか。現状の数字を土台にして動いていくと、この目くらましになる（事業、活動を適切に実施できなくなる）のではないか。

- ・廃線ウォークの利益のみで 3 人の雇用が成り立っていくのか。あんとりっぷ（体験プログラム）機構の事業として成り立っていくのか。このあたり詳しく聞きたい。

【市観光課 大竹課長回答】

- ・観光客数について、1 3 8 万人の上の数字を勘定するのは難しい。目標として設定していた増加目標値は、毎年増加するものとしていた。
- ・令和元年度にビッグデータを活用して、安中市への流入者数について実際の数値を理解した。この数字を鑑みて、観光客数の目標の下方修正をした。
- ・ビッグデータは、携帯を持っている方の安中市への出入りをカウントしているので、安中市民の地元観光、いわゆるマイクロツーリズムの観光客はカウントしていない。このあたりを考慮すれば、観光客数はもっと上がったのではないかと思う。

【安中市機構 萩原事務局長回答】

- ・観光客数の根拠については、私の知る限り、（事業実施当初年度の観光客数である）1 3 8 万人が起点。KPI の設定の中で、各年 5 % 増が目標であった。平成 3 0 年度の時点で実際の結果と乖離しており、到達が難しいということで、下方修正を行ったところである。
- ・秋間梅林は、毎年 2 0 万人程度くらいの来場があった。この算出にあたっては、駐車場にきたバスの台数や、売店の駐車場に停めた乗用車の数を調査して、例えば通常の乗用車は、乗車人数が平均 3 人程度などとして、人数を割り出して集計している。
- ・観光機構として営業を開始して 3 年 6 か月が経過した。推進交付金を大事に使って今まで事業実施を行ってきて、毎年事業が継承されてきた。その実績としては、観光地域づくりとして住民の皆様と一緒に作りあげていくという根幹から、交付金を活用して体験プログラム冊子「あんとりっぷ」を紙媒体から、皆が WEB 上で見られるようにデジタル化するなどを行った。また、他の統計方法などについても、今年で交付金はなくなるが、今まで築いてきたものを、今後の機構事業に継承していきたい。
- ・コロナ禍で地域のために支援できる事業についても機構で取り組んでいきたい。

テイクアウト飲食店の紹介やマスクの販売、グルメチケット等の飲食店の支援など、地域への支援策を DMO としてできるところを中心に、行政と一緒に協議しながら実施していきたい。

- ・機構として自主運営ができるかという質問については、「廃線ウォーク」により、1名の社員と、2人の臨時職員の計3名の雇用（人件費）を生み出している。そのほかに、採算性が取れるマスクの作成など、今後も利益率が高い事業を実施していきたい。

(3) 安中市区長会 萩原会長からの追加での御意見、御質問

- ・交付金頼みの運営では持たないのではないかとということが聞きたいところ。自主的にどこまでできるのかを見極める必要がある。行政に今後も補助金を要求していくのであれば、機構を作った意味がない。今後、収益事業と、地域づくり事業とを足してやっていけるのか。機構だけでそれを担う必要はないが、行政と調整していく必要がある。
- ・DMO では、「二市一町」という安中、富岡、軽井沢の結びつきを扱っている。この一つのポイントとして、「富岡製糸場」が挙げられる。この富岡製糸場の煉瓦を焼いたこと（技術など）は、深谷の日本煉瓦製造にそのまま引き継がれた。明治5年の煉瓦とそれ以降では質が異なる。渋沢栄一の会社が大きくなったのは「碓氷線」があり、そこに煉瓦を投入してきたから。市内に渋沢栄一に関する大河ドラマの撮影が現在来ているが、深谷ともっともっと結びつくべきと感じている。深谷の方も富岡に行ってボランティアをしている。こういう人たちは松井田や安中市に興味を持っている。技術遺産とかストーリーとして考えて大きい意味での取り組みとして考えるのもいいのではないか。

【安中市観光課 吉田観光係長回答】

- ・現状予算査定に入っている。観光機構の事務局への現状のヒアリングも行っている。この中で、自主事業化するのが、目的であるから、補助金目的で実施していくことはないようにということで話はしている。
- ・機構とは、市の観光事業の事務の一元化も3月以降やっていかないといけない。また、現状市が持っている中で、観光機構に移管できる事業についても検討していく必要があると考える。今萩原様から御意見もらった内容は、様々な鉄道遺産の関わりがある方と、機構とが結びつきを持ってもらい、観光資源にしていきたいと考える。

(4) 磯部温泉組合 田村組合長様への安中市からの意見聴取

【安中市観光課 吉田観光係長】

- ・磯部温泉組合長の田村様から磯部温泉組合のイルミネーションなどの実施事業をこの場で御紹介いただきたい。

【磯部温泉組合 田村組合長様】

- ・普段実施している地元のお祭りなどは、新型コロナの影響があり中止になった。
- ・現在実施しているイルミネーションについて、「磯部駅前」や「風のこみち」のイルミネーションは設置し始めてから5年間くらい経過している。さらに、今年から赤城神社の参道のイルミネーションを実施している。神社でイルミネーションを実施することに関して如何かという声もあったが、咲前神社の和田宮司様の御理解を得て、恋人の聖地としてのムードを盛り上げたいと考えて、参道の周りを囲うようにイルミネーションを飾り、参道の途中にもハート形のイルミネーションを設置した。好評との声が聞こえてきており、来年以降も継続していく予定。

(5) 安中市観光機構 高橋専務からの意見

- ・みなかみ町の「みなかみバンジー」が1億円くらいを稼ぎ出している。みなかみ町観光協会がバンジーの運営会社に委託事業として出して、売り上げの1～2割を手数料として収入を得ている。このみなかみバンジーにしても、八ッ場ダムの水陸両用バスにしても、「人の力を上手に借りて運営する」方が上手く事が運ぶと考える。
- ・また、みなかみ町観光協会は、入湯税が観光協会に入ってくるとのことで、安定支出がある。
- ・DMOを運営していくことにあたり、委員の皆様と一緒に知恵を出し合って、2本柱でも3本柱でも作っていききたい。他の企業など、「人の力」を借りながら、事業展開をしていききたい。事業として良い情報があれば、皆様に共有していただきたいし、共有していききたい。ぜひ安中市観光機構に情報提供をいただきたい。
- ・コロナを契機にして、今、この時期に今後何をやっていけるかを改めて考えていくことが必要と思う。

(6) 富岡市観光課 片山観光交流係長様への安中市からの意見聴取

【安中市観光課 吉田観光係長】

- ・富岡製糸場に関する話が先ほど出たこともあるので、富岡市から質問・御意見があればぜひお願いしたい。

【富岡市観光課 片山観光交流係長様】

- ・富岡市の観光の状況についてお話をしたい。観光入込客数について、安中市はビッグ

データなどを活用していることも聞いたが、富岡市では、カウントできるものは聞き取り、カウントできないところはカウントできる数字の中の理論値を掛けて算出している。そうして、年間で「約 250 万人」という数字が観光入込客数となっている。

- ・富岡製糸場来場者数は、登録後の 130 万人から昨年度は 44 万人となっている。二番目に観光客が多い妙義エリアへの来訪は年間 80 万人となっている。しかし、妙義エリアも富岡製糸場もともに観光消費単価が低いことが課題。
- ・コロナの影響があり、富岡製糸場は 4・5 月に閉場しており、入場者数は 0 となった。緊急事態宣言後の 6 月から開場したが、前年比 2 割程度の来場しかなかった。秋口に入り、5 割程度に戻ってきてはいる。
- ・富岡市では、今まで観光地でないところが、いきなり観光地になってしまったところで、観光事業に関して様々な模索を実施している。
- ・富岡製糸場はリピーター率の低さが目立つ。しかし、富岡製糸場に誘客するのが当市の観光ではないという認識ではある。
- ・「観光戦略プラン」が富岡市ではようやく作成する。ストーリーが大事とのことで、今日の会議でも話があったが、富岡市として、方向性を見定めて、年数を掛けて、場当たりの施策をすることなく事業展開をしていきたいと考えている。

(7) 高崎行政県税事務所 武井所長様への安中市からの意見聴取

【安中市観光課 吉田観光係長】

- ・群馬県のほうで御意見があればよろしくお願ひしたい。

【高崎行政県税事務所 武井所長様】

- ・群馬県としては、安中市観光機構が中心となって広域的な取り組みを行っている側面から、支援を していきたいと考えている。
- ・高崎行政県税事務所は、新型コロナウイルスの地域対策本部になっている。この土曜日から群馬県のコロナ警戒度が「4」と最高レベルになる。観光振興を進める中でコロナの影響は痛手かと思うが、コロナ対策を行っていただきながら、経済を回していく取り組みを考えていく必要があると考える。今後、群馬県からコロナ対応について、御協力をお願いすることもあるが、ぜひ協力をお願いしたい。

(8) 群馬県観光物産国際協会 須藤専務理事様への安中市からの意見聴取

【安中市観光課 吉田観光係長】

- ・群馬県観光物産国際協会のほうで御意見があればよろしくお願ひしたい。

【群馬県観光物産国際協会 須藤専務理事様】

- ・事務局からの説明で、群馬県として実施した「愛郷ぐんまプロジェクト」の恩恵があったと話があったが、当方は事業の事務局を担っていた。その中で判明したことであるが、群馬県内の県民旅行者は対前年度で倍になっている。「廃線ウォーク」は現在、県外の方が中心ということであれば、地元の方にも訴求していけばより継続的になると考える。
- ・ポストコロナを考えると、休日に集中していた観光を平日にも分散するなどの工夫をすることも今後必要になっていくと考える

5、報告事項

【安中市観光機構 依田氏より説明】

- ・委員会資料の17～18ページの安中市観光機構の独自事業について紹介したい。この項目は、交付金を活用した事業ではないために、先ほどの説明と場面を分けた。

(1) 安中市観光機構における商品開発の取り組み（※特記事項のみ記載）

①復刻版 HW 時刻表

- ・初版1,000部を発行したが、廃線ウォーク参加者以外にも、機構の売店にて購入にお越しいただいた方も多く、完売となった。このため、増販を1,000部掛けたが、既に内200部は販売済みである。

②クールマスク

- ・第1弾の5,800枚、第2弾の1,800枚を作成して販売している。販売方法は、ある程度在庫は持っているが、基本的に受注販売となっている。
- ・先日12月4日に小池都知事が第1弾のマスクを着用して記者会見して、更にマスクをPRしたことがテレビで放映されたことがきっかけで問い合わせが殺到した。このため、在庫が残っていた第1弾のマスクの在庫がなくなったが同じマスクが欲しいとの問い合わせもあったために、1500枚追加発注した。
- ・女性首長のつながりである「びじょんネットワーク」というものがあり、安中市長と東京都知事とがつながっていた。このびじょんネットワークの中で、オンライン通販を行っているが、ここにクールマスクを出品したことがきっかけで、今回都知事が着用するに至った。

(2) ももいろクローバーZ ツアーイベント

- ・安中市が受け入れているイベントである。もともと今年の5月に実施予定であったが、コロナの影響により、1年延期となった。
- ・現状、来年5月にコロナが収束しているのかという疑問はあるが、2021年5月実施ということで話は進んでいる。会場は安中市文化センターを予定しているが、文化センター側が、コロナ対策として800名定員に対して半分の「400

名」までの受け入れとしているなど、実施にあたって検討すべき事項はある。なお、ももクロの事務所側は実施するつもりでいる。

- ・安中市観光機構としては、商品開発やイベント実施の部分で関わっていく。

【安中市観光課 吉田観光係長による説明】

- ・マスクに関連して、今後市内にある「碓氷製糸株式会社」の製品を使ったマスクを製品化できる方向で進めている。先日、私と安中市観光機構の上原氏と碓氷製糸株式会社を訪問して、製品化について調整を行った。今後は、観光機構と調整しながら、早い段階で、碓氷製糸株式会社のマスクのほうを販売していくようにする。また、製品が出来たら委員の皆様にも報告させていただく。

6、有識者総評（清水顧問）

- ・安中市がいろんな意味で話題になっている。鉄道文化村むらで鬼滅の刃が話題。今まで鉄道文化むらは、マニア向けだったが、小さい子たちもくるようになり、駐車場も満員である。また、様々なイベントを企画したり、JR と連携したりと工夫を凝らしている。機構もマスクが話題になっている。
- ・総括として、なんでDMOを作ったのかを考えると、お客様に宣伝をするだけでなく地域の人が安中市の誇りを感じるようにする。行政は行政、観光機構は機構、民間は民間ではなく、皆で集まって知恵を出してオール安中でやっていくことが必要。
- ・しかし、現実としては、各地のDMOで、所詮行政のやることだからと民間が無視している、またその逆もしかりと、DMOとして様々な団体が連携して推進していく難しさを感じている。
- ・事業の「柱」となるものは足りないが、商品開発の取り組みは素晴らしい。当初は2,000万円の売り上げを予定していたが、（そこには及ばなくても、）現状で1,000万円の売り上げが今できていることが素晴らしい。なぜ成功したかといえば、「仕組み」ができたから。ホームページで商品を並べて、ホームページで申し込めてというところで、一元化ができたことは素晴らしい。軽井沢観光協会はこれできていない。協会は協会、旅館組合は旅館組合、行政は行政など各社バラバラで一緒になっていくことができない。
- ・プロモーションも素晴らしい。特にメディアの活用やじゃらんなどのOTAを活用していることが挙げられる。これは、敢えて言うなら機構の「依田氏」の力である。今後、プロモーションは、SNS、メディアをうまく活用する必要がある。
- ・雇用については、3人の実績になっている。アルバイトを含むものであるが、素晴らしい。
- ・しかし、「オール安中」については、まだまだ取り組めることがあると考える。皆で

知恵を出し合い、進めていくことが重要。

- ・二市一町の連携は今少し難しい。行政の都合で連携するのではなく、ストーリーとして、「良いとこどり」で連携するのがいい。行政で連携することを決めたから、ではなく中身のある連携ができればよい。
- ・コロナ禍でどこの観光事業も厳しい。特に紙の媒体を使うことは難しい。海外、ウィーンなどではもう紙の使用はない。ドイツなどでは紙の媒体で欲しい時には1ユーロ払う。持ち運びたいときには、データを端末にダウンロードする。基本今ホームページを見るようになっている。
- ・従前のモニターツアーはまったくやる必要がないのもわかってきた。もうやらなくてもいいと考える。
- ・人件費も工夫が必要、あちこちで民間からの出向、行政からの出向、地域おこし協力隊など、人員の雇用についても工夫が必要。
- ・将来、DMOについては、自立がポイント。自立とは、自前の金でやってくださいということではない。ヨーロッパでも行政が半分程度、(DMOに)補助金を入れて運用している。本来は3分の1程度が良いと考える。行政から補助金を出すときに、KPIを設定して審査を行い、達成できなかった場合には、人員刷新などを行っている。かなりシビアであるが、こうした取り組みが海外では行われている。
- ・自前の財源は、マスクの話やプログラムの話もしてきたが、当初の目標の2000万円には程遠い。「みなかみバンジー」は、高橋専務も話題に挙げていたが、1億円のうち、1000万円の手数料を取っている。これは、河川占用を観光協会しか手続きできないため、この手続きのために間に入り、10パーセントの手数料を取っている。メガネ橋の有料化なども必要。駐車場も有料にすると「収入」が入るならのよしのが桜鑑賞の際の駐車場を予約制にして有料にしている。旅行会社も事前予約できることで、確実に止められることから喜んでいいる。
- ・民間の力や知恵を引き出すことについては、鉄道文化むらに注目したほうが良い。鉄道文化むらはもっと儲かる施設であると思う。鬼滅の刃で儲かっていることから、今後もっと儲けましようと考えていったほうがよい。
- ・DMOの体制や事務局、委員会の在り方についても現在見直しの時期に来ている。交付金を活用しているこの委員会が開かれている。本来DMOを推進するのに、知恵を出す場があったほうがよい。
- ・KPIは今後も必要である。地方創生が終わったから、地域再生計画もいらぬし、KPIも設定しないではなく、来年以降もKPIは必要となる。これは内閣府に出すためではなく、皆への旗印として出せるものとして作る必要がある。このためには、統計データが必要。統計データを得るための経費は必要経費といえる。
- ・地域再生計画は「5か年の計画なんていらぬ」ではなく、議会や住民の納得のために収支計画が必要だから、地域再生計画も必要となる。ここまでやってきたのだから

ら、今後もっと頑張っていっていただきたい。

7、挨拶（安中市観光機構 武井理事長）

- ・なぜ DMO の認定を受けたのかが今振り返るとわからなくなってしまっているのではないかと感じた。今清水顧問が申し上げた課題をどのように立ち向かっていけばよいのかを考えていく必要がある。
- ・市が国に申請し、機構を作った。この一番の目的は、地域にある、地域の観光資源を磨き上げて、誘客をしていこう、地域の活性化に役立てていこうが目標であった。ではどのように機構を運営していくのか。行政の補助と国の補助金を資本にして作った。資本金というものはなかったが、凄いことをやりたいとして立ち上げた。
- ・体験プログラム「あんとりっぷ」では、まずは、200のプログラムを作りあげて誘客を図っていくこととしたが、安中市にはこれというものない。富岡市には、富岡製糸場がある、軽井沢には多くの観光客がある、こうした隣り合った自治体の観光客を呼び込めれば良いと考える。
- ・また、観光機構だけでなく、商工会として何をやってきたかについても紹介すると、湘南新宿ラインを安中市に連れてこようではないかという取り組みを行って、当時の安中市民の倍の数の署名を集めて、JR に持ち込んだ。結果、連れてくることはできなかったが、安中市でイベント列車を数多く走らせようという話が進んだ。こうした取り組みの流れで SL が信越線に走るようになり、今の鬼滅の刃コラボに繋がったと思う。
- ・秋間梅林のスイーツ作りや農泊も観光機構としてつながりを持って事業を行ってきた。
- ・現状、会議の在り方も落ち着いてしまっている。会議では観光機構の持続ではなく、安中市の観光誘客、それを通して、地域の稼ぐ力を生み出す仕掛けを考える、また自立していく組織として考えていくということでやってきた。しかし、コロナの影響により、状況は厳しくなった。
- ・今後はアフターコロナを見据えて種をまく必要がある。インバウンドに対していつになるかわからないが、実施していきたいと国が述べている。今言われている DX や IOT、デジタル化などで情報発信や観光客への PR を行う必要があるが、こうした内容を振り返る必要があるのが「今」であると思う。
- ・知識を持っている方々に御意見をもらいながら進めていきたい。一つの会社が商品を生み出していくためには、時間がかかる。機構としては10年やれば何か見えると考える。5年の取り組みで、課題や必要な取り組み、土台が見えてきた。
- ・観光機構は、行政からのある一定の資金が必要。行政としても予算が厳しいかと思うが、今が観光機構としては頑張りどころである。（例えば、）観光機構としてトンネル

の修繕を行うのはできない。機構としては、運営をしていく側。行政に修繕、維持管理の部分は御協力をお願いしたい。

8、閉会

以上

令和2年度 第2回安中市DMO推進委員会 出席者一覧

役職	組織名	役職	氏名	出欠
委員長	安中市	市長	茂木 英子	栗野副市長様代理出席
副委員長	(一社)安中市観光機構	理事長	武井 宏	出席
委員	(公財)群馬県観光物産国際協会	専務理事	須藤 雅紀	出席
委員	高崎行政県税事務所	所長	武井 俊彦	出席
委員	富岡市観光交流課	課長	大塚 浩之	片山係長様代理出席
委員	軽井沢町観光経済課	課長	中山 茂	欠席
委員	安中市区長会	会長	萩原 豊彦	出席
委員	安中市観光ボランティアガイドの会	会長	吉村 幸太郎	出席
委員	(公社)安中青年会議所	理事長	前島 正樹	出席
委員	NPO法人Annakaひだまりマルシェ	代表	神戸 るみ	欠席
委員	(株)ボルテックスアーク	代表取締役社長	田島 悦久	福岡様代理出席
委員	安中市国際交流協会	会長	三宅 陽子	欠席
委員	安中市商工会	事務局長	田中 毅	欠席
委員	安中市松井田商工会	事務局長	岩本 明久	加部様代理出席
委員	安中市産業政策部	部長	堀米 純	出席
委員	磯部温泉組合	組合長	田村 光三	出席
顧問	有識者		清水 慎一	出席